

ISTA2012 に参加して

立位で臥位よりも大きく骨盤が後傾する症例に対するカップ設置基準平面
- 4次元動作解析を用いた検討 -

田村 理*



目で見ると
海外論文発表

The reference plane for cup placement in patients with large posterior changes in pelvic sagittal inclination from supine to standing position - 4D motion analysis -

Key Words : motion analysis, pelvic sagittal inclination, total hip arthroplasty

<参加会議名> 25th International Society for Technology in Arthroplasty (ISTA)

<開催場所> Sydney, Australia

<渡航期間> 2012年10月3日～10月7日

<発表タイトル>

The reference plane for cup placement in patients with large posterior changes in pelvic sagittal inclination from supine to standing position - 4D motion analysis -

この度、ISTA2012に参加しました。ISTAは、整形外科医や技術者など人工関節に関わる研究者が集い、人工関節の新素材、ロボット手術の進展、新しいテクニック、テクノロジーから手術アプローチまで人工関節に関するあらゆる分野の討論を行う国際学会です。

私は、股関節を中心に研究を行っていますが、人工股関節を設置する上での基準姿勢を、4次元動作解析システムを用いて明らかにし、その成果を発表しました。また、本学会において、人工股関節のバイオメカニクス、人工股関節の素材、摺動面の問題など股関節外科における最近の知見を得ることができました。また、海外の研究者たちのactivityの高さに感銘をうけると共に、日々の研究やその成果を発信することの重要性を肌で感じました。今後も、

この学会で得た知見、体験を大切に、研究生活を送りたいと思います。



発表風景



当教室の先生方と



講演会場風景



*Satoru TAMURA

1979年11月生
大阪大学医学部医学科卒業 (2004年)
現在、大阪大学大学院 医学系研究科
運動器医工学治療学 大学院生 博士課程3年 整形外科
TEL : 06-6879-3271
FAX : 06-6879-3272
E-mail : tamura-osk@umin.net



Coffee break